

# トルコの金融政策について

2013年2月21日

2月19日、トルコ中央銀行(以下、中銀)は定例の金融政策会合において、上限金利(翌日物貸出金利)および下限金利(翌日物借入金利)をそれぞれ0.25%引き下げを公表しました。上限・下限金利の引き下げは、2カ月連続となります。なお、政策金利(1週間レポレート)は据え置きが決定されています。

## 《予想外の上限・下限金利引き下げ発表》

今回の上限・下限金利の0.25%引き下げは、市場の予想外であったため、利下げ発表直後に、トルコリラは、ドル・ユーロなどの主要通貨に対して、弱含み(トルコリラ安)となりました。

中銀の今回の上限・下限金利引き下げの目的は、トルコリラ高を抑えることです。具体的には①輸出環境を整え、経常赤字を削減すること、②過度の海外資本流入を抑制すること、を目指しています。

今回の金融緩和策によって、トルコリラ高を抑えることになれば、輸出環境の改善と金融市場の安定化につながる事が期待されます。

## 《今後の見通し》

### ●金利

市場金利は昨年末に大幅に低下したため、当面は現在の水準付近で推移することが見込まれます。中銀は、足元の原油価格の上昇にも関わらず、インフレ(物価上昇)懸念は小さいと考えています。中銀は、引き続き国内景気回復や経常赤字削減を重視した金融政策を続け、必要に応じて追加の利下げ(金融緩和)を実施するとみています。

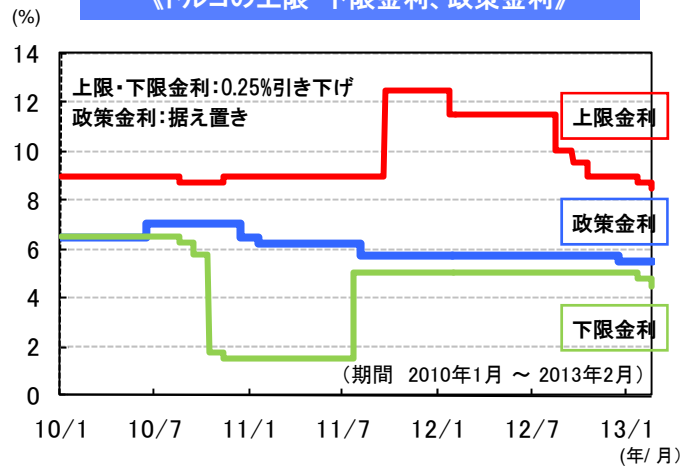
### ●景気

2012年の経済成長率は3%を下回る水準まで減速したとみられますが、今後景気は持ち直すと予想しています。中銀は海外資本の過度な流入を抑制することで、国内経済の安定成長を図るものと考えられます。

### ●為替

トルコでは、国債格付けの引き上げ観測や先進国を中心とした金融緩和を背景に、海外からの投資資金の流入が続いていましたが、格付けの据え置き決定もあり、最近ではトルコリラ上昇に一服感が出ています。しかし、政府の財政規律順守の姿勢は市場では高く評価されており、経常赤字削減やインフレ(物価上昇)懸念が和らぐなど経済情勢が改善していることから、トルコリラはレンジ内ながらも底堅い動きを続けるとみています。

《トルコの上限・下限金利、政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《トルコリラの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。